

『 裏磐梯の絶滅危惧種 』

【目的】

昨年調査した絶滅危惧の植物の同じ場所の自生地を変化があったかを調査する。

【結果】

下記に示す調査対象種（地点）については、前年に較べて大きな変化はなかった
只、オキナグサは順調に生育している様に思われる。又、近くにあったヒメサユリ数株
がすべて盗掘にあっていた。

【考察】

生育にマイナスの要因と思われるもの

- 1) 自然の遷移による
- 2) 園芸の為の採取
- 3) 河川の改修（コンクリート化）
- 4) 湿原の開発
- 5) 森林の伐採
- 6) 気候の変化

裏磐梯では主なる原因は1)、2)、5)、6)などが考えられる。

【対策】

- (1) 民間の自然ガイドなどを監視員に委嘱し、巡視の協力をしてもらう。
- (2) 当該地点については特定の監視員等のみが把握し、一般への公表は控える
- (3) 子供達に「生物多様性の大切さ」を教えるなどの早急なる啓蒙活動が必要と思われる。

【概要】

(1) 実施期日

平成23年5月19日

平成23年6月10日

平成23年6月12日

平成23年6月16日

(2) 調査者

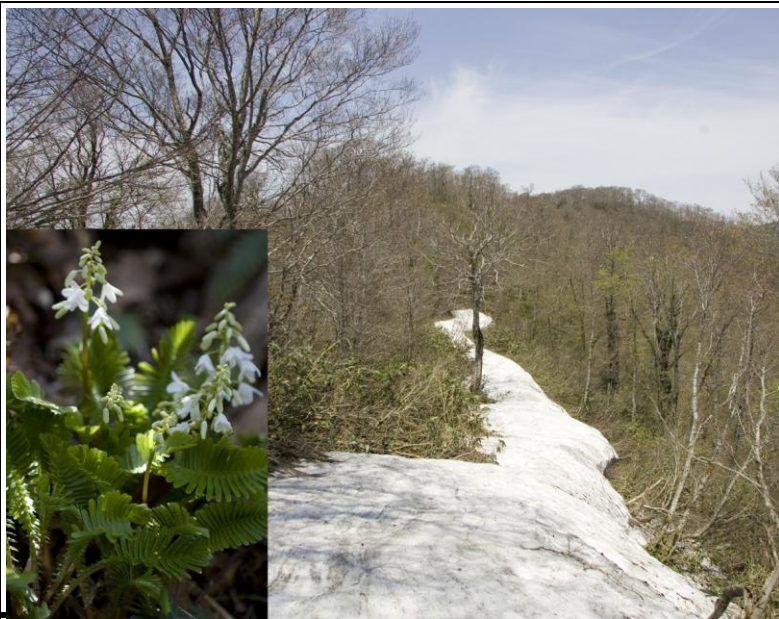
友坂 豊 （裏磐梯エコガイドの会）

(3) 調査項目および結果

p 2～4 に示す

【 裏磐梯の絶滅危惧種 】

1 オサバグサ群生地




日付	2011年 5月19日
天候	晴れ
場所	築部山付近
分類	福島県：絶滅危惧Ⅱ類
<p>・30度強の北西の斜面の約100㎡の所に群生をしている。その他に数カ所、オサバグサが自生している情報がある</p>	

その他植物	<p>木本がホオノキ、ブナ、シナノキ、アカイタヤ、ハウチワカエデ、オオカメノキ、アオダモ、ツルアジサイ、ツリバナ、ヒメアオキ、タニギキョウ、ニワトコ、テツカエデ、オオバクロモジなど</p> <p>草本がギョウジャニンニク、リョウメンシダ、ショウジョウバカマ、エンレイソウ、オシダ、ラショウモンカズラ、ヤグルマソウ、ユキザサ、イヌドウナ、ソバナ、オクモミジハグマ、サンカヨウ、シシガシラ、ウスバサイシン、など</p>
-------	---

2 ツルキツネノポタンの群生地

	日付	2011年 6月10日
	天候	晴れ
	場所	ゴールドライン付近
	分類	福島県：絶滅危惧Ⅱ類
<p>・水の流れに沿った数十メートルの湿地のエリアにかなりの株数が群生していた</p>		
他植物	サワグルミ、ヤマハンノキ、アカマツ、シロヤナギ、ミズナラ、ミズキ、ウワミズザクラなどの樹木が生えている	

3 オキナグサの群生地

	日付	2011年 6月12日
	天候	くもり
	場所	磐梯山のガレ場
	分類	福島県：準絶滅危惧
		環境省： 福島県絶滅危惧Ⅱ類
<p>・20メートル四方に約100株ほどすでに種を飛ばしたあとであった。去年とほぼ同じ状況であり、小さい株がたくさんあり、今後の群生が期待される</p>		
他植物	コウリントンポポの小さい株、バンダイクワガタ、シラタマノキ、キタゴヨウ、マルバシモツケ、ススキ、マルバキンレイカ、キツネヤナギ、イタドリ、アズマギク、ヤマブキショウマ、ウスユキソウ などの植物が自生していた	

4 トキソウ 群生地

	日付	2011年 6月16日
	天候	晴れ
	場所	五色沼付近
	分類	福島県：準絶滅危惧 環境省： 福島県絶滅危惧Ⅱ類
<p>考察</p> <p>・裏磐梯のおよそ2000㎡の私有地の湿地に、1000株以上ものトキソウが去年と同様に群生していた</p>		
その他植物	<p>ヤナギラン、サワヒヨドリ、カキラン、コオニユリ、エゾミソハギ、ウメバチソウなどの湿地の植物がたくさん確認され、湿原の植物がたくさん確認された。</p> <p>また、湿地に生えるハンノキやシロヤナギは幼木のうちに切られるので日光がよく当たる</p>	